

## 高齢者施設における公立図書館サービスの現状と課題

坂本 遥彦

高齢化が進む日本社会において高齢者を対象とした公立図書館サービスは重要である。しかし高齢者の中には近隣の図書館まで移動することが難しい人も存在する。そのような状況の中で、高齢者施設を訪問して実施する公立図書館サービスの現状と課題を明らかにすることは、公立図書館サービスを楽しむことができる高齢者を増やすことに繋がるのではないかと考えられる。本研究の目的は、公立図書館が高齢者施設で行うサービスの必要性や課題などの現状を図書館側、そして施設側の両面から明らかにすることである。そこで、本研究では文献調査及びインタビュー調査を実施した。

文献調査では、最初に本研究におけるニーズという言葉の定義を示した上で、高齢者施設の入居者のニーズを示した。次に、「公共図書館における障害者サービスに関する調査研究」という調査から高齢者施設で実施される公立図書館サービスについての集計を行った。インタビュー調査では、高齢者施設で実施される公立図書館サービスの事例として、品川区立大崎図書館のサービスに対するインタビュー調査を実施した。インタビュー調査の対象としたのは、品川区立大崎図書館の館長と介護老人保健施設ソピア御殿山の事務局長各1名の計2名である。

文献調査では、高齢者施設で実施される公共図書館サービスには読書欲求に応えるサービスが多いことが明らかになった。しかしインタビュー調査では、読書欲求以外の娯楽に応えるサービスの存在が明らかになった。図書館情報学用語辞典第5版では高齢者サービスに対する「また近年、認知症の人の社会参加や生きがい創出を支援するサービスの事例も増えている。」という記述がある。この記述では認知症の人に限定されているが、高齢者施設で実施するサービスに対しても、同じようなサービスを展開し対応できるニーズの範囲を広くしていくことが必要だと考えられる。

今後は、入居者に直接インタビュー調査をすることで、本研究の結果や提供されているサービスと入居者の抱えているニーズがマッチングしているのかという点についての調査を行うことが必要になる。また本研究のインタビュー調査で対象とした事例は、公立図書館と病院・介護老人保健施設が同一施設内に位置する複合施設であった。今後は単独館や複合施設といった施設の分類に留まらず、両施設間の距離や人口、公共交通機関の整備状況などといった地域の環境にまで着眼点を広げた調査をすることで新たな調査結果が期待できる。

(指導教員 呑海沙織)